

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	令和1年10月25日
評価確定日	令和2年1月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和1年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902831	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成29年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ			
事業所名	やすらぎの杜			
所在地	(237-0077) 神奈川県横須賀市浜見台2-14-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎの杜は笑顔大切にしています。ご利用者の笑顔の為にも、ご利用者をただ介護される側に置くのではなく、共に考え、共に語り合い、共に笑い合える関係でいたいと考えています。ご利用者の笑顔が、ご家族、職員へ伝播し、ホームを取り巻く全ての人に笑い声が出るようなホームにしたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和1年10月25日	評価機関 評価決定日	令和2年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は特定非営利活動法人やすらぎの運営です。同法人は地元の有志が集まり設立された法人で、平成17年にここ「グループホームやすらぎの杜」を開設しました。浜見台は京浜急行「追浜駅」から20分程の高台に建っており、交通の利便性が悪い為、地域にあるNPO法人と連携して、同法人が運行するコミュニティバス（現在は民間企業が運営）を利用したり、コミュニティスペース（サロンハマちゃん）を活用させて頂いたり、地域に根差したグループホームです。

●やすらぎの杜では「笑顔のある生活」を介護理念とし、利用者・家族・職員は勿論のこと、地域の方も含めて事業所に関わる全ての人々が笑顔になれるホームを目指しています。毎年恒例としているユニット対抗の運動会、毎朝の日課としている体操をはじめ、トランプ・書道・ぬり絵等のレクリエーションの他、地域のボランティアの方達にコーラス、フラダンスを披露していただいています。また、敬老会・夏祭り・クリスマス会等の行事には地域の方々もお誘いしており、数十名の方が参加され、アットホームな雰囲気の中で参加している方全員の笑顔が溢れています。近年では利用者の重度化もあり、以前まで行っていた外出行事(みかん狩り等)が難しくなってきているので、事業所内でも楽しんでいただけるようなレクやアクティビティを充実させていきたいと考えています。

●法人では毎年社員旅行(2班に分けて)を実施しており、職員同士の親睦を深める機会を設けています。事業所の職員の定着率も良く、勤続年数が3年以上の職員も半数以上在籍されていることから、職員間のチームワークや意思の疎通も図られており、互いに声をかけ合いフォローしながら目の行き届いたケアが行われています。

向けて

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念は、「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げ、事業所内に掲示し全職員で理解共有しながら、事業計画、年間の目標などを作り、その達成度もユニット会議で振り返りながら日々理念と計画に沿った介護支援に努めている。	介護理念に「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げています。この介護理念の他にも「やすらぎの杜職員の心得」や「認知症対応十カ条」を職員用トイレに掲示しています。理念や職員の心得については申し送りやミーティング時に振り返りながら、理念に沿ったケアの実践につなげています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コーラスボランティアや、中学生の職場体験の受け入れも行い、常に交流をはかっている。夏祭りや敬老会、クリスマス会には、地域の方をご招待し、交流を深めている。又、地域にあるNPO法人が運営するサロンを借りてイベントを開催したりしている。ボランティアによるコミュニティバスが公共交通となったが、今まで通り職員やご家族の来訪に使用している。	定期的にコーラスやフラダンスボランティアの方の来訪もあり、交流を図っています。事業所主催の行事(夏祭り・敬老会・クリスマス会)には地域の方も招待して、毎回数十名の方々に参加いただいています。今年度は職場体験の話はありませんでしたが、依頼があった年には受け入れを行っています。事業所の行事に参加していただく等、地域の方々にも十分に認知されています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や、相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、町内の方、地域包括センター、ご利用者、ご家族代表、又、年に数回、市の担当職員も参加。施設長、管理者、事務長と共にホームの状況を報告しながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。身体拘束についての報告も行い、ご意見ご理解を頂いている。災害時等の対応についても意見、助言、提案等を頂いている。内容について議事録を作成し、職員に周知すると共に、市に報告している。	町内会長・民生委員・地域包括職員・家族代表の方の参加で、事業所の現状や活動報告、地域の情報等もいただきながらサービスの向上を目指しています。運営推進会議に参加いただいている方をメンバーとして身体拘束適正化委員会も開催しており、身体拘束や虐待についても話し合い、介護における身体拘束の定義を理解していただいています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、疑問な点は、常に問い合わせをして確認をするようにしている。特に転倒事故等、特変があった時には市の担当課に報告し、相談等にものってもらう等連携している。運営推進会議には、年1回程度参加して頂き、ホームの状況をお伝えしている。	市の担当者は年1回は運営推進会議に参加いただいております。事業所の現状を理解していただいています。また、地域包括の職員は運営推進会議に年に数回参加いただいているので、様々な情報をいただいています。市の担当者には事故報告や疑問が生じた際に連絡を取り合っています。研修等の案内が来た際には、事務長と管理者が出席して、職員にも共有しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待行為の弊害について揭示し、研修等を行い、職員に徹底するようにしている。日中は玄関も原則、開錠とし、見守りによってケアするよう努力している。やむをえない利用者については、常にご家族と連携をとり、職員のミーティングにてより良い方法を話し合うようにし、改善に向けて速やかに対応するようにしている。外部研修には積極的に参加するよう心掛けている。	身体拘束と虐待行為による弊害について併せて毎年研修を実施しています。日頃から、利用者と接する際には尊敬の念を持つことを心がけ、上から目線の声かけにならないように留意しています。更に毎年身体拘束及び虐待の自己点検を行い、ミーティング等で再度確認することで身体拘束・虐待のないケアに努めています。運営推進会議で開催している身体拘束適正化委員会の内容を職員に周知しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つ事を心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、ミーティングにおいて、確認、改善すべき点の話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は、成年後見人を必要とする人はいないが、今後、必要がある場合には介護について、よく話し合いながら進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正等、変更となった場合も、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事の無いよう説明し、ご理解、ご納得頂いた上で必ず同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に重要事項、運営規定に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っている。面会に来られた時や、家族会を通し、利用者の暮らしぶりや変化をお知らせし、意見、要望等を聞いてケアプランに反映できるようにしている。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。	契約時に重要事項説明書に記載している苦情相談窓口や対応の流れについて説明しています。また、日頃から家族の面会も多く、面会用紙に自由意見を記入していただける欄を設けています。ケアプラン作成時には電話で家族からケアの要望や意見を伺いケアプランに反映できるように努めています。家族も協力的で、年1回の家族会や行事には多くの方が参加されており、その際に近況報告と併せて直接話を伺っています。また、外部評価のアンケート結果については、運営推進会議で家族に報告しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で日々の気づきや意見、提案を自由に述べられる機会を設けている。日頃から管理者と職員は気軽に話せる関係を作る努力をしており、個人面談でも随時意見を聞くようにしている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けている。	風通しの良い職場環境整備に力を入れて取り組んでおり、社員旅行(泊まり・日帰り)をはじめ、ミーティングや日頃からも積極的に意見や提案を聞いています。必要に応じて随時面談を行うことで、職員が不満やストレスを溜めることのないように留意しています。今後は社労士を活用して、職員がより安心・安全に働ける職場環境を整備していきたいと考えています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、状況によって期末手当を支給し、やりがいを有るよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。又、年1回、社員旅行を実施し、代表者、管理者、職員間の交流を深めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。又、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員が積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業所との交流ができています。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知ることができています。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。近隣のグループホームとの話し合いの機会も増えてきた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。出来る限りご本人やご家族が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながらご家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていきけるよう努め、更に電話等によりその人に合った介護ができるよう話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活等をお知らせしている。笑顔の写真をご覧になって、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人のマッチングを重要視している。グループホームに入る事が本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上でご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、花の水やり、ブレンダーでの野菜作り、カレンダー作成等を職員と共にやって頂くようにしている。職員とご利用者が共につくるホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、自由に面会に来て頂いている。外食や外出も無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけではなく食事やお茶飲み等の時間を持て頂くよう働きかけている。夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会等の行事の際には、ご家族にも声をかけ、一緒に過ごす時間を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないように、近隣に住んでいた方の訪問等も随時受けている。又、お墓参りや実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り今まで縁のある人や場所との関係を保って頂けるよう働きかけている。又、お手紙を書かれる方には、ハガキ等の購入、投函等のお手伝いもし、馴染みの関係が途切れないようにしている。	行事の際には地域の方々に参加いただいております。外出ついでに立ち寄ってくださる方も多く、地域の方とは馴染みの関係なっています。携帯電話を持ち込んでの方は、友人や家族と電話で話している方もいます。また、家族だけでなく友人が来訪された際に、一緒に出かけている方もおり、これまでの馴染みの関係を継続できるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロア等で過ごして頂くよう働きかけている。大人数掛けのソファも増やし、コミュニケーションをはかれるようにしている。ご利用者同士でカラオケ等を楽しまれたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族と偶然お会いする事もあり、退所後の様子を伺う事もある。又、入居希望者を紹介して下さったりして、信頼関係を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞くようにしているが、入居後も時間を見つけて共有フロア等で寄り添って、一人一人とお話しする機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。又、仕草や表情から思いを汲み取り、その人に合ったケアプランを作成し、支援に努めている。	入居時のアセスメントで過去の生活歴や既往歴、暮らし方の希望等、得られた情報を踏まえて日々の関りの中から本人の今の思いや意向の把握に努めています。本人が発した言葉や問いかけに対する反応を業務記録やケース記録に書き止めて情報を共有しながら、ケアプランに反映させ思いや意向に沿えるように心がけています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようにミーティング等で話をするようにしている。入居前に依頼していた訪問リハビリを継続し、ホームに来て頂き今までと同じサービスを利用している方や入居前楽しみにしていた新聞購読を継続されている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりと取るよう努め、より良い介護計画の作成を心掛けている。	入居時はアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成して1年を目安に経過を観察しています。その後は半年ごとの見直しを基本とし、事前に職員から情報を収集し、ケース記録、個人記録を基にカンファレンスを行い、家族の要望や必要に応じて医師の見解も盛り込みながら現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応については、ご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、外出の際の車イスの貸与等、協力して頂いたり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが、毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。又、年に数回、地域のNPO法人の協力で外出行事を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、ご本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在、内科2医院、歯科2医院、精神科1医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。	契約時に協力医療機関について説明を行い、家族の意向を尊重して主治医を決めていただくようにしています。協力医は現在、内科の往診医2ヶ所、歯科も2医院から往診があり、主治医を切り替えていただく場合は利用者と家族に選んでいただいています。精神科の往診は月2回必要な方のみ受診しています。他科については、家族対応を原則としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、リハビリの訪問介護を依頼しているご利用者も増えており、適切な受診ができるようご利用者の状況を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させて頂き、状況を把握するよう努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を永らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。ターミナルケアは行っていないが、重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における指針」を基に、事業所で出来ること出来ないことについて家族に説明し、同書にサインをいただいています。主治医の判断で重度化したと認められた際には、医師・家族・管理者で話し合いの場を設け、今後の方針を共有しながら特養や療養型病院への転移も考慮しながら、家族の意向に沿った支援に努めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応に当たれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時、消防署の協力のもと実際に使用。防災倉庫を設置し、飲料水、食料品、リハパン等の備蓄も行っている。停電時における発電機も用意した。又、一昨年9月、ホーム内の異常を知らせるパトライトを設置し、近隣に一早く知らせると共に協力体制を強化している。	年2回昼夜を想定した防災訓練を実施しています。消防署の協力の下、水消火器や通報装置を使用した訓練も行い災害時に対応できるように訓練を実施しています。また、建物の外に防災倉庫を設置し、飲料水や食料品、衛生用品、発電機等を備蓄しています。事業所内の異常を知らせるパトライトを地域に設置しており、自治会の防災訓練で事業所を災害場所として設定し、自治会の方々が駆けつけて救助・救護活動する訓練も行われる等、地域との協力体制も年々強化されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭において言葉遣いにも留意して行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、個人情報に留意し、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	利用者は人生の先輩であり、接する際には常に尊敬の念を持ちながら、節度のある声掛けと対応を心がけています。あくまでも、介助してあげているではなく、介助させていただいているという気持ちで介助にあたるよう職員に伝えています。事業所内研修でも接遇や個人情報の取り扱いについて学び、理解を深め、1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないよう留意しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等ではご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたたりすることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は殆ど共有フロアで過ごされているが、読書の好きな方や、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折には回転寿司に行ったり、近隣のサロンを貸し切りで外食したりしている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を作ったり、誕生日には手作りケーキでお祝いするようにしている。	栄養士が考えたメニューを基に、生鮮食品等を近隣の商店から購入し、職員が調理しています。下膳や配膳、下ごしらえ等は出来る方には手伝っていただき、ADLの維持につなげています。食事は1番の楽しみでもあることから、旬の食材や料理を提供し、彩りや盛り付け、香りでも楽しめるように工夫しています。時にはユニットごとに外食や出前を取ることで、いつもと違った料理を楽しんでいただいています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。自力ではあまり食が進まない方には、食事介助をして少しでも食事量を増やして頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促している。トイレでの排泄がうまくできない方に対しては、見守りによって声かけ、誘導して失敗を少なくするよう支援している。	夜間はオムツを使用している方もいますが、日中はリハビリパンツで対応しています。日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っています。自立の人は必要最低限の介助に努め、見守りながら失敗を減らせるように支援しています。便秘防止として、体操、乳製品や繊維食等を摂っていただきながら便秘予防に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、服薬等の便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。入浴は清潔保持のみではなく、打ち身、あざ、湿疹等の発見出来る機会であり、大事にしている。季節に合わせて、ゆず湯、菖蒲湯等として入浴を楽しんで頂けるようにしている。	週3回の入浴を基本としていますが、時間や曜日は利用者の希望に合わせて臨機応変に対応しています。入浴は清潔保持のみならず、打ち身、アザ、湿疹等の発見につながることもあることから、欠かさず身体チェックを行っています。2階にはリフト浴も完備していますが、1階の利用者で重度化した方は職員2名で対応しています。入浴剤は使用していませんが、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯も実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう無理のない時間に起床して頂くようにしている。又、日中は共有フロアにいる方が殆どであるが、読書が好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り支援している。状況の悪化や改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たみなど、それぞれができる事やお手伝いをして頂いている。ただ、ご利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。野菜等の苗を植えて毎日の水やりをしている方もいて、収穫できた時はとても喜んでいる。フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。カラオケ、ぬり絵などを楽しまれる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方は、玄関前で外気浴をして頂いている。年、数回の外出行事には、ホームの車や職員の車等を稼働して、沢山のご利用者が外出できるようにしている。(お花見、つつじ見学、みかん狩り等)回転寿司やバイキング等の外食は皆様、本当に喜んでいる。歯医者に行った帰りに買い物等を楽しむ方もいる。	天気や気候に応じて無理のないよう外出支援を心がけています。傾斜部に位置していることから、2階と1階の両方から外に出れる造りになっており、玄関前に椅子を置いて外気浴を行ったり、建物周辺を散歩するようにしています。年間の外出行事のお花見やつつじ見学等はユニットごとに日にちや時間帯をズラして出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があればお買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけて頂いている。手紙も自由にやり取りして頂いている。ホームに年賀状や手紙が届く方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアには、レクでの製作物や行事の際の写真を貼りだしたりしている。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。より多くの方がテレビやカラオケを楽しんだりできるよう、ソファやテーブルの配置も工夫している。ベランダはナスやゴーヤ等を栽培し、水やりを日課にして成長の様子を楽しみにしている方もいる。	建物が傾斜部に建っていることから、リビングの大きな窓から木々や花を見ながら季節の移り変わりを感じることが出来るリビングになっています。さらに、フロアや玄関に生花を飾り、絶やさないようにすることで季節感を感じていただけるように心がけています。リビングと廊下には行事の際の写真を飾り、家族や友人が来訪された時の話題のきっかけにもなっています。生活にメリハリをつけるために、テレビ、ソファ、テーブルの配置を工夫しています。ベランダで栽培している花の水やりを日課にしている方もいます。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには多人数が座れるようソファを設置しており、気の合うご利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケを楽しむ方もいらっしゃる。介護ロボット「パルロ」を活用して歌や体操、ゲーム等を行うこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている、今まで大切にしてきた鏡台や仏壇を持って来られる方もいる。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成したものを貼ったりしている。また敬老会、みかん狩り、運動会、クリスマス会など行事の折に写真を撮り、居室に貼っている。	入居時に使い慣れた家具やその方にとって馴染みの物を持ち込んでいただくようにしています。介護用ペット、カーテン、エアコン、戸棚は完備されており、鏡台や整理ダンス、テーブル、椅子、桐ダンス、仏壇、家族や飼っていたペットの写真等が持ち込まれ、思い思いに過ごせる居室作りがされています。殺風景な居室にならないよう、行事写真やレクの作品等も飾っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（もみじ）

作成日

令和1年10月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	常勤職員の増加を計ると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤できる職員を広く募集し、人間関係を築きながら定着化をはかる。定年制を見直し、長く働く為の環境整備を行う。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ	利用者の趣味に合ったボランティアを招く。	地域の方や、職員の間関係、又、ボランティアセンターへ働きかける。	1年
3	13	職員のスキルアップをはかる。	職員一人一人がより良い介護を目指す。	外部研修等に参加する機会を増やし、スキルアップをはかる。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階すみれ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念は、「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げ、事業所内に掲示し全職員で理解共有しながら、事業計画、年間の目標などを作り、その達成度もユニット会議で振り返りながら日々理念と計画に沿った介護支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コーラスボランティアや、中学生の職場体験の受け入れも行い、常に交流をはかっている。夏祭りや敬老会、クリスマス会には、地域の方をご招待し、交流を深めている。又、地域にあるNPO法人が運営するサロンを借りてイベントを開催したりしている。ボランティアによるコミュニティバスが公共交通となったが、今まで通り職員やご家族の来訪に使用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や、相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、町内の方、地域包括センター、ご利用者、ご家族代表、又、年に数回、市の担当職員も参加。施設長、管理者、事務長と共にホームの状況を報告しながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。身体拘束についての報告も行い、ご意見ご理解を頂いている。災害時等の対応についても意見、助言、提案等を頂いている。内容について議事録を作成し、職員に周知すると共に、市に報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、疑問な点は、常に問い合わせをして確認をするようにしている。特に転倒事故等、特変があった時には市の担当課に報告し、相談等にものってもらい等連携している。運営推進会議には、年1回程度参加して頂き、ホームの状況をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待行為の弊害について揭示し、研修等を行い、職員に徹底するようにしている。日中は玄関も原則、開錠とし、見守りによってケアするよう努力している。やむをえない利用者については、常にご家族と連携をとり、職員のミーティングにてより良い方法を話し合うようにし、改善に向けて速やかに対応するようにしている。外部研修には積極的に参加するよう心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つ事を心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、ミーティングにおいて、確認、改善すべき点の話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は、成年後見人を必要とする人はいないが、今後、必要がある場合には介護について、よく話し合いながら進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正等、変更となった場合も、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事の無いよう説明し、ご理解、ご納得頂いた上で必ず同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に重要事項、運営規定に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っている。面会に来られた時や、家族会を通し、利用者の暮らしぶりや変化をお知らせし、意見、要望等を聞いてケアプランに反映できるようにしている。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で日々の気づきや意見、提案を自由に述べられる機会を設けている。日頃から管理者と職員は気軽に話せる関係を作る努力をしており、個人面談でも随時意見を聞くようにしている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、状況によって期末手当を支給し、やりがいを有するよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。又、年1回、社員旅行を実施し、代表者、管理者、職員間の交流を深めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。又、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえるよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員が積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業所との交流ができています。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知ることができています。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。近隣のグループホームとの話し合いの機会も増えてきた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。出来る限りご本人やご家族が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながらご家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていきけるよう努め、更に電話等によりその人に合った介護ができるよう話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活等をお知らせしている。笑顔の写真をご覧になって、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人のマッチングを重要視している。グループホームに入る事が本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上でご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、花の水やり、ブレンダーでの野菜作り、カレンダー作成等を職員と共にやって頂くようにしている。職員とご利用者が共につくるホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、自由に面会に来て頂いている。外食や外出も無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけではなく食事やお茶飲み等の時間を持て頂くよう働きかけている。夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会等の行事の際には、ご家族にも声をかけ、一緒に過ごす時間を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないように、近隣に住んでいた方の訪問等も随時受けている。又、お墓参りや実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り今まで縁のある人や場所との関係を保って頂けるよう働きかけている。又、お手紙を書かれる方には、ハガキ等の購入、投函等のお手伝いもし、馴染みの関係が途切れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロア等で過ごして頂くよう働きかけている。大人数掛けのソファも増やし、コミュニケーションをはかれるようにしている。ご利用者同士でカラオケ等を楽しまれたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族と偶然お会いする事もあり、退所後の様子を伺う事もある。又、入居希望者を紹介して下さったりして、信頼関係を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞くようにしているが、入居後も時間を見つけて共有フロア等で寄り添って、一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。又、仕草や表情から思いを汲み取り、その人に合ったケアプランを作成し、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようにミーティング等で話をするようにしている。入居前に依頼していた訪問リハビリを継続し、ホームに来て頂き今までと同じサービスを利用している方や入居前楽しみにしていた新聞購読を継続されている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりと取るよう努め、より良い介護計画の作成を心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応については、ご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、外出の際の車イスの貸与等、協力して頂いたり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが、毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。又、年に数回、地域のNPO法人の協力で外出行事を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地域の医師にお願いしているが、ご本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在、内科2医院、歯科2医院、精神科1医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、リハビリの訪問介護を依頼しているご利用者も増えており、適切な受診ができるようご利用者の状況を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させて頂き、状況を把握するよう努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を永らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。ターミナルケアは行っていないが、重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応に当たれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時、消防署の協力のもと実際に使用。防災倉庫を設置し、飲料水、食料品、リハパン等の備蓄も行っている。停電時における発電機も用意した。又、一昨年9月、ホーム内の異常を知らせるパトライトを設置し、近隣に一早く知らせると共に協力体制を強化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭において言葉遣いにも留意して行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、個人情報に留意し、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等ではご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたたりすることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は殆ど共有フロアで過ごされているが、読書の好きな方や、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折には回転寿司に行ったり、近隣のサロンを貸し切りで外食したりしている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を作ったり、誕生日には手作りケーキでお祝いするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。自力ではあまり食が進まない方には、食事介助をして少しでも食事量を増やして頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促している。トイレでの排泄がうまくできない方に対しては、見守りによって声かけ、誘導して失敗を少なくするよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、服薬等の便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。入浴は清潔保持のみではなく、打ち身、あざ、湿疹等の発見出来る機会であり、大事にしている。季節に合わせ、ゆず湯、菖蒲湯等として入浴を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう無理のない時間に起床して頂くようにしている。又、日中は共有フロアにいる方が殆どであるが、読書が好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り支援している。状況の悪化や改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たみなど、それぞれができる事やお手伝いをして頂いている。ただ、ご利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。野菜等の苗を植えて毎日の水やりをしている方もいて、収穫できた時はとても喜んでいる。フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。カラオケ、ぬり絵などを楽しまれる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方は、玄関前で外気浴をして頂いている。年、数回の外出行事には、ホームの車や職員の車等を稼働して、沢山のご利用者が外出できるようにしている。(お花見、つつじ見学、みかん狩り等)回転寿司やバイキング等の外食は皆様、本当に喜んでいる。歯医者に行った帰りに買い物等を楽しむ方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があればお買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけて頂いている。手紙も自由にやり取りして頂いている。ホームに年賀状や手紙が届く方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアには、レクでの製作物や行事の際の写真を貼りだしたりしている。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。より多くの方がテレビやカラオケを楽しんだりできるよう、ソファやテーブルの配置も工夫している。ベランダはナスやゴーヤ等を栽培し、水やりを日課にして成長の様子を楽しみにしている方もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには多人数が座れるようソファを設置しており、気の合うご利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケを楽しむ方もいらっしゃる。介護ロボット「パルロ」を活用して歌や体操、ゲーム等を行うこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている、今まで大切にしてきた鏡台や仏壇を持って来られる方もいる。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。また敬老会、みかん狩り、運動会、クリスマス会など行事の折に写真を撮り、居室に貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜 (すみれ)

作成日

令和1年10月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	常勤職員の増加を計ると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤できる職員を広く募集し、人間関係を築きながら定着化をはかる。定年制を見直し、長く働く為の環境整備を行う。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ	利用者の趣味に合ったボランティアを招く。	地域の方や、職員の人間関係、又、ボランティアセンターへはたらきかける。	1年
3	13	職員のスキルアップをはかる。	職員一人一人がより良い介護を目指す。	外部研修等に参加する機会を増やし、スキルアップをはかる。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。